

Q2 授業の準備は、どうすればよいですか？

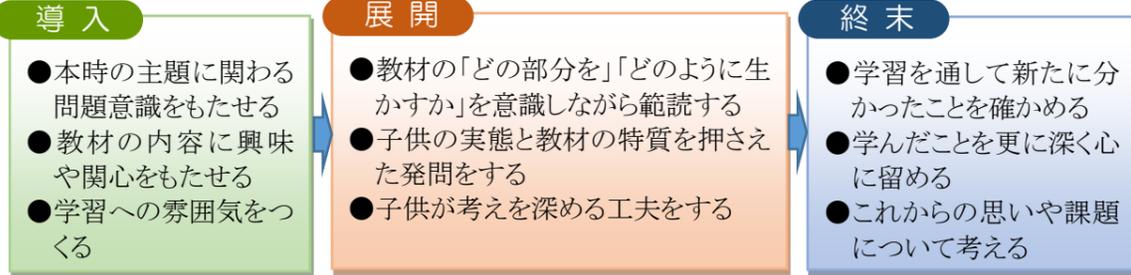
A2 教材を十分に吟味し、子供に提示する資料を準備し、効果的な授業の進め方を考えておきます。

授業を行うに当たって、教師が十分な準備をすることで、子供を教材に引き込み、ねらいに迫る授業を展開することができます。準備の実際はどのようなものか、教材「手品師」で考えてみましょう。

※「手品師」は、売れない手品師が男の子に手品を見せる約束をした後、友人から同じ日に大舞台のマジックショーへの出演依頼をもちかけられる。手品師はマジックショーへの出演を断り、男の子に手品を見せる方を選択するという話。



○ 道徳科の基本的流れ



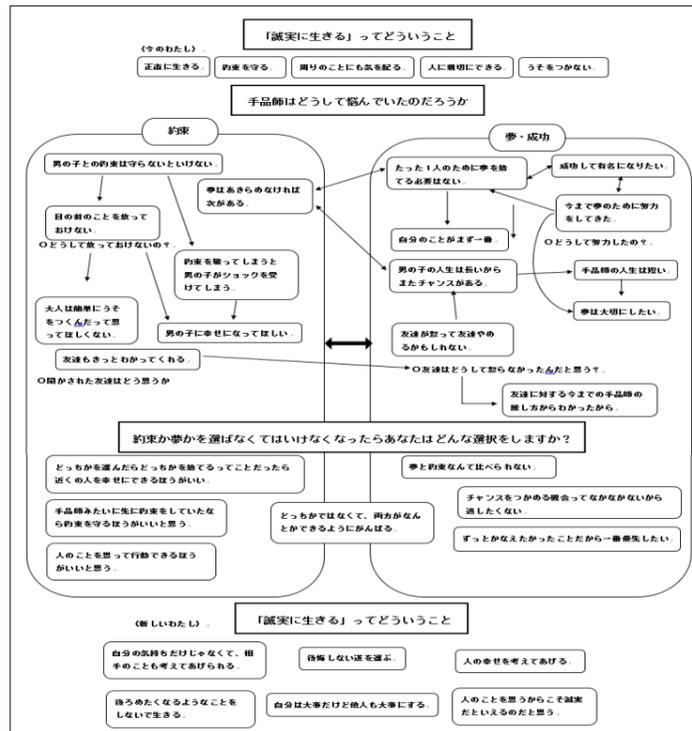
○ 教材「手品師」の授業準備

資料提示の準備	発問の準備
<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵 ・プロジェクター 等 	<p>本時のねらいと内容項目を押さえた上で、発問を準備します。また、子供たちの心を揺さぶるために、補助発問も考えておくとよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中心発問例「なぜ手品師は、約束を守ろうとしたのでしょうか」 ○基本発問例「手品師は、どんなことを思って『ああ、来るともさ』と男の子に言ったのでしょうか」 ○補助発問例「『迷いに迷った』手品師は、どんなことを考えていたのでしょうか」
書く活動の準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノート ・ワークシート ・ホワイトボード 等 	

○ 「話し合いチャート図」とは

「話し合いチャート図」とは、時系列に沿って、子供の発言や教師の繰り返し、子供の思考をより深めていくための補助発問等を記入することで、それらを他の意見とどう関わらせていくかを矢印等で示した図です。

授業では、付箋を用いてチャート図を作成し、「どのタイミングで補助発問をすることが有効か」「対立しそうな意見はどれか」等を考えながら、授業の流れを考えました。(小学校)



Q3 子供に深く考えさせるためには、どんな発問が効果的ですか？

A3 授業展開に合わせて、発問を工夫します。

発問には子供の心を動かし、問題意識や多様な考え、感じ方を引き出すねらいがあります。中心発問は、「ねらい・学習課題につながる」「答えが一つではない」など、大きな発問を設定しましょう。



○ 導入における発問の工夫

ねらいや教材に関する事で、子供の関心を授業に向けられるようにしましょう。現在、抱えている悩みや関心ごとを問いかけることもよいでしょう。
【例】「将来の夢は何かな」「自分がしてもらってうれしかったことは何かな」など

○ 展開における発問の工夫

教材を吟味し、中心発問をまず考え、次に、それを生かす前後の基本発問を考えます。発問が契機となり、子供がじっくり考え、十分に話し合い、新しい気付きや学びを得ることを目指して、「何を」「いつ」「どこで」「なぜ」「どう問うのか」を考えましょう。
【例】中心発問で「本当の〇〇とは何だろう」
基本発問で「～のとき、△△はどんな気持ちだろう」など

○ 補助発問や繰り返し等の工夫

発問をしたら、子供にじっくり考えさせ、話し合いに十分な時間をかけます。そのため、発問は極力絞って子供の思考を促すようにしますが、子供の考えをより深く引き出すための補助発問や繰り返しなど、展開に合わせて行うことも大切です。
【例】「なるほど、どうしてそう考えたの」
「〇〇さんの考えと違いますね。△△さんはどう考えますか」など

Q4 話し合いをするときのポイントは、どんなことですか？

A4 子供たちが相互に多様な考えを学び合い、深め合えるような工夫をします。

- ・まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に行われるように工夫しましょう。
- ・どのような手法で話し合いをしても、子供の意見を教師が意図的に集約せず、様々な考えを学び合うような授業をつくりましょう。
- ・教師が中立的な立場から離れ、発言の流れと反対の立場に立つなど、子供たちの心にゆさぶりをかけてみるのもよいでしょう。
- ・議論という言葉に縛られず、自分の考えを深め、友達とともに語り、よりよい生き方を考えることができる活動を目指しましょう。



○ ペアでの対話や、小グループでの話し合い

クラス全体での話し合い活動を行う前に、自分の意見を考えさせて、ペアでの対話や、小グループでの話し合いを取り入れています。(小学校)



考え、議論する道徳

Q5 学年・学校全体で取り組む授業改善は、どうすればよいですか？

A5 「ローテーション道徳」を行ったり、他教科と関連付けたりして、学年・学校全体で授業改善に取り組みます。



○「ローテーション道徳」とは

「ローテーション道徳」とは、学級担任だけでなく、教師が交代で学年の全学級を回って道徳科の授業を行う取組のことです。

右の表は、道徳科の授業を学年4クラスで実施している例です。このように、教師が何度も同じ教材で授業を行うことによって指導力の向上にもつながります。また、教師の専門教科や得意分野などを生かした授業ができるという利点もあります。

さらに、学級担任が自分のクラスを参観したり、別の教師による自分のクラスの子供の評価を聞いたりすることで、子供の新たな一面を発見することもでき、組織的な評価につながります。

○「ローテーション道徳」の担当表の例

	1組	2組	3組	4組	担当クラス	教材
1週目	A	B	C	D	1組担任	A
2週目	E	A	B	C	2組担当	B
3週目	F	D	A	B	3組担当	C
4週目	C	E	F	A	4組担当	D
5週目	B	F	D	E	学年主任	E
6週目	D	C	E	F	副担任	F

○他教科との関連付け

道徳科と他教科との関連を図るため、年間指導計画を立てる際に道徳教育の全体計画や別業などを参考にし、道徳科の教材の学習時期を調整して、他教科との関連指導の見通しを立てました。また、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などについても、指導の時期や内容との関連を考慮して、指導の工夫を図りました。(中学校)

学級担任だけでなく、副担任や学年主任もそれぞれの学級で「ローテーション道徳」を実施しています。教師は、同じ教材での授業を繰り返すことで、教材研究が深まります。生徒は、いろいろな授業を体験することで、道徳科への意欲を高め、よい効果が出てきています。(中学校)



Q6 家庭や地域との連携は、どう行えばよいですか？

A6 道徳科の授業を積極的に公開したり、保護者や地域の人々の参加を得た学習等の連携強化を図ったりします。

○親子で学ぶ「親子道徳の日」

「親子道徳の日」は、親子で道徳科の授業を考えることで、子供たちの行動や心の在り方について家庭で話し合う機会にしました。道徳ノートを持ち帰り、保護者に感想や子供への励ましの言葉を書いていただきました。(小学校)

○地域の人々から学ぶ「ふれあい活動」

地域の名産や伝統文化、地域の自然、地域で働く人々等について研究する「ふれあい活動」を行いました。地域のよさを自覚したり、地域の人々との絆を強めたりすることで、地域の人々への愛着を高めることができました。(小学校)

子供と教師の信頼関係、そして、教師の温かな学級経営があってこそ、道徳科の授業が成り立ちます。共に考え、語り合う、子供にとっても教師にとっても楽しい授業になることが深い学びにつながります。まずは、教師自身が楽しいと思える道徳科の授業を目指しましょう。どんなに素晴らしい授業だったとしても、子供は急に変わることはないかもしれません。しかし、子供の成長を信じ、道徳性が少しずつ生まれていく過程を長い目で見守っていきましょう。様々な授業方法や表現方法がたくさんある道徳科は、チャレンジ精神あふれる「夢のある教科」なのです。

「考え、議論する道徳」の実現に向けた 授業づくりに役立つ Q&A

本年度、愛知県道徳教育推進会議では、道徳教育の充実を目指し「考え、議論する道徳」の実現に向けて、協議を重ねてきました。本リーフレットでは、「考え、議論する道徳」を実現するために、どのように授業をしたり、道徳教育を進めたりしていくかについて、「Q&A方式」にまとめました。



「考える道徳」

- ・自分の経験や考え方、感じ方との関わりで**多面的・多角的**に考える授業
- ・道徳的な課題の発見・解決に向けた**主体的**に考える授業

「議論する道徳」

- ・お互いの価値観を知り、自分の意見を磨き、価値観や意見が違うことを**主体的・協同的に議論する**授業

Q1 道徳科の指導は、どうすればよいですか？

A1 多様な指導方法を組み合わせて、授業を構成します。

道徳科は、多様な指導方法があります。教材研究をしっかりと行い、子供の実態に合わせて工夫していきます。子供たちが、話し合いをしたり、体験的な学習をしたりすることで、多面的・多角的な考え方を育てていけるような授業をすることが大切です。



考え、議論する道徳

登場人物の自我関与が中心の学習

登場人物の判断や心情を自分との関わりで考え理解を深める

問題解決的な学習

道徳的な問題を多面的・多角的に考え、今後、出会う問題や課題を主体的に解決する資質・能力を養う

道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技や動作化等の表現活動を通して、道徳的価値の理解を深める

主体的・対話的で深い学び